

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	宮城県・白石市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	白石市文化遺産を活用した地域活性化事業計画		
4 実施計画期間	平成 26 年度 ～ 平成 31 年度		
5 実施計画の概要			
<p>第五次白石市総合計画（平成23年策定）を踏まえ、伊達政宗の右腕として活躍した片倉小十郎の城下町として、特色を活かしたまちづくりを行う本市において、文化遺産を活かした計画を推進するため以下の取り組みを実施する。以下の事業をとおして、文化遺産の継承、調査研究を進め、市内の文化遺産を活用しつつも、次世代に残す体制づくりを行う。また、本市の文化遺産を幅広く活用するため、歴史資料のみならず、民話や地域に残る伝承の保全や活用を図る。</p> <p>1. 文化財講演会 2. 歴史フォーラム 3. 民話のつどい 4. 地域の文化遺産記録作成調査研究事業（地域の記録資料・記憶と伝承の文化遺産救出事業・地域に残る歴史資料調査研究事業）</p> <p>※第五次白石市総合計画（該当部分の抜粋）は別添のとおり。</p>			
6 実施体制			
<p>白石市として、事業の全体的な企画・調整、及び事業の指導は教育委員会生涯学習課が行う。その他主な担当課、役割は以下のとおり。</p> <p>教育委員会生涯学習課：推進委員会の事務局、事業全体の調整、指導。 教育委員会博物館建設準備室：調査研究の連携。 産業部商工観光課：観光業務、事業に関する連携等。 また、補助事業は次の団体が実施する。 白石市文化遺産活用推進委員会（委員長：細田紀明） 構成団体：白石市文化財愛護友の会、白石市古文書の会、白石市文化財保護委員会、民話の会、白石市教育委員会生涯学習課（事務局） ほか、以下の団体と連携・協力して事業を行う。 NPO法人宮城資料保全ネットワーク、白石の郷土資料を守る会、白石古文書サークル、東北大学東北アジア研究センター上廣歴史研究部門、公益財団法人上廣倫理財団。</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 10,170 千円	平成29年度申請額： 3,430 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>(1) 歴史資料をはじめとする文化遺産の散逸防止と継承 ＝教育委員会に資料保存の相談、問い合わせが増加→最終的には文化遺産の継承が図られる</p> <p>(2) 市民及び観光客の文化遺産に関する理解の促進＝交流人口（観光客）の増加、市民の文化遺産保全・活用に対する意識が変化する</p> <p>(3) 報告書の作成等を通し地域史の研究において、地元研究機関や関係団体の連携向上が図られる ＝文化遺産の活用の促進に寄与する 当市の代表的な文化遺産である白石城や片倉小十郎などの文化遺産だけでなく、民話などの幅広い文化遺産を活用することにより、歴史のまち白石のイメージ構築と、観光客の増加につながる。 よって、地域の文化遺産を活かして、地域の活性化に寄与することができる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	鬼小十郎まつり 白石城主片倉小十郎重長が大坂夏の陣の際に真田幸村から娘を託されたという逸話を再現したもの。		
事業概要：	文化財めぐり 文化財愛護友の会会員を中心に史跡等の文化財に関する場所を訪れるもの。		
事業概要：	姉妹都市歴史交流講演会 姉妹都市の登別市との歴史交流のため、講演会を行うもの。		
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
特になし。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	白石市教育委員会生涯学習課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	白石城への入場者数			関連事業 :	①、②	
目標値 1 :	平成 26 年度 65,419 人 ⇒ 平成 31 年度 70,000 人					
設定根拠 1 :	東日本大震災以前の数値まで回復することを目標に設定した。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2 :	文化遺産が所在する最寄駅の乗降者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	東北本線白石駅の 1 日当たりの乗車人数			関連事業 :	①、②、③	
目標値 2 :	平成 26 年度 2,849 名 ⇒ 平成 31 年度 3,000 名					
設定根拠 2 :	観光客の増加を図っているため、交通手段の一つである電車の利用者の増加を目論み設定した					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
名	名	名	名	名	名	
目標区分 3 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 3 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	白石市を訪れる観光客数			関連事業 :	①、②、③、④	
目標値 3 :	平成 26 年度 711,377 人 ⇒ 平成 31 年度 1,000,000 人					
設定根拠 3 :	東日本大震災以前の数値まで回復することを目標に設定した。(平成16年は1,016,964人)					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 4 :	(リストから選択してください。)					
評価指標区分 4 :	(リストから選択してください。)					
具体的な指標 4 :	(具体的な指標を記載してください。)			関連事業 :		
目標値 4 :	平成 年度 (単位) ⇒ 平成 31 年度 (単位)					
設定根拠 4 :						
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	

事業④：	地域の文化遺産記録作成調査研究事業		実施団体：	白石市文化遺産活用推進委員会 白石市教育委員会	
事業区分：	調査研究		事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 31 年度	
事業概要：	(1) 地域の記録資料・記憶と伝承の文化遺産救出事業 (2) 地域に残る歴史資料調査研究事業 ・調査期間：平成29年4月～平成30年3月 ・調査対象：市内に残る古文書、その他歴史資料となりうる物や、地域の伝承等				
評価指標区分：	(リストから選択してください。)			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	市内文化財の調査依頼件数 (寄贈・寄託等の依頼含む)				
目標値：	平成 28 年度		7 件	⇒	平成 31 年度 15 件
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
件	件	件	件	件	件